



「大祓・茅の輪くぐり」 比企 善彦 作

うぶすな

茨木神社社報

発行所

茨木神社社務所

茨木市元町4-3

072 (622) 2346

[http://www.](http://www.ibarakijinja.or.jp/)

[ibarakijinja.or.jp/](http://www.ibarakijinja.or.jp/)

茅の輪くぐり神事

茅の輪くぐり神事は、当神社の主祭神である、素盞鳴大神すさのおのさまから「茅の輪」を授けられた一家が、疫病から免れたと言う神話に基づいています。

神代の昔、素盞鳴大神さまは、南海を旅された折、日が暮れ裕福な巨旦こたん将来きやうらいに宿を頼まれますが断られます。やむなく、貧しい蘇民将来そみんきやうらいに宿を乞われますと、御座所を作り粟飯を炊くなど心からもてなしました。それから数年が経ち、蘇民将来の家に行きお礼がしたいと言われ、家族三人に茅の輪を授け、腰に付けよと仰いました。そしてその夜、この三人を除いて巨旦将来をはじめ亡ばされてしまいます。そして蘇民将来に「もしこれからの世に、疫病がはやりだしたなら、蘇民将来の子孫だと言って、茅の草を輪の形にし、腰に付けよ。そうすれば死を免れることができるであろう」と仰せにられました。

『備後風土記』

このことから、疫病が流行すると、人々は「蘇民将来の子孫なり」と口々に唱え、「茅の輪」を身につけるようになったり、「蘇民将来」と書いた紙を門にはっておくと災いを免れるという信仰が生まれました。茅の輪も、最初は人々が腰につけるほどの小さなものですが、時代がたつにつれて大きくなり、これをくぐって罪や穢を取り除くようになりました。

当社では水無月の大祓の日にあわせて、本殿前に大きい茅の輪を据え置き、心身の罪穢れを祓い清め、病魔に負けないお力を頂けるよう「茅の輪くぐり神事」が、江戸時代より斎行されています。

東日本大震災

三月十一日午後二時四十六分東北地方を襲った大地震と大津波は、死者・行方不明者合わせ三万人近くの上る大被害をもたらしました。犠牲となられた方々に衷心より哀悼の意を表しますとともに、被災された皆様

に心よりお見舞い申し上げます。地震の後の大津波、アメーバのように静かに田畑を呑み込む姿、荒れ狂う波が家々を次々薙ぎ倒す姿を映す映像に誰もが我が目を疑い、驚愕に堪えない気持ちを抱きました。震災直後、直ちに全国から自衛隊員・消防隊員・警察官が多数救援・不明者捜索のため被災地に入り、車両やテントに寝泊まりして身を挺して活動する姿。また、道路の寸断や瓦礫の為、食糧・水の届かない避難所の人達を思い、自分たちへの食糧・水をそちらへ回そうと懇願する人達の姿に世界のメディアは感嘆・賞賛して報道しました。

戦後、経済の発展とともに目に見えるものを追い求め、価値観は一層多様化し祖先・先人達から受け継いできた日本精神は

緩み続けてきました。作家の曾野綾子さんが雑誌に「地震が眠りかけていた日本人の怠惰で甘やかされた精神を揺り動かしてくれば、多くの犠牲になられた死者達の霊も慰められるかと思うのである」と書かれています。

多くの国民は、被災地・人々に対して今、何ができるかを自問し、義捐金以外に何もできないジレンマ・無力さを感じました。その様な折、天皇様は、震災に関するお言葉の中で「被災した各地域の上にこれからも長く心を寄せ（中略）復興の道の手を見守り続けていくことを」とお述べにられました。この「長く心を寄せて、見守り続け

る」気持ちを持つことの大切さと「目に見えないものが目に見える世界を創る」ことの大切さをこの震災は気づかせてくれたと思います。

東日本大震災義捐金のお礼

三月十一日に発生しました東日本大震災に伴い、三月十五日より四月末までの間、社務所前に義捐金箱を設置してまいりました。

ご参拝の折の心温まるご支援により金三〇七、五九七円の義捐金が寄せられました。ご協力ありがとうございました。

寄せられた義捐金は、大阪府神社庁を通じて、産経新聞厚生文化事業団に送金いたしました。右ご報告申し上げます。

これからの主な神事

大祓神事 六月三十日

午後二時齋行

茅の輪くぐり 厄除神楽

茅の輪守・粽授与

夏祭

七月十三日宵宮

十四日日本宮

午前十時齋行

末社琴平神社例祭 九月十日

例大祭（秋祭） 十月十日

午前十時齋行

七五三詣 十一月中随時

祈禱者にお守り・おみやげ授与

祈禱者にお守り・おみやげ授与

末社恵美須神社例祭

十一月二十二日

石門別神社記念祭 十一月二十二日

新嘗祭 十一月二十三日

大祓・除夜祭 十二月三十一日

シリーズ神道 ③③

三種の神器

（八尺瓊勾玉）

「八尺瓊勾玉」は、「八咫鏡」あのむらものつらぎとともに三種の神器のひとつでありながらその由縁・お働きが今ひとつ理解されにくいと思われます。「古事記」「日本書紀」には度々、「勾玉に関する記述があります。



まず、天照大御神様がお生まれになられた時、父神である伊邪那岐命様は、尊い御子を得たと大変喜ばれ御首にかけた玉の緒の玉を天照大御神にお与えになられました。これは天照大御神様が多くの神々をお生みになった伊邪那岐命様と一体になられた事を意味します。

また、天照大御神様と素盞鳴命様がお心清く明らかな証の為、誓約して神々をお生みになりました。この時、天照大御神様はその証として用いられたが身に付けておられたいた勾玉です。まさに大神様

神さまのおはなし 最終回

鵜葺草葺不合命

さて、海の神の娘豊玉毘売命は、自ら国を出て火遠理命の元へ参り、「私はもう身ごもりまして、産み月になり思いますのに、天つ神の御子を海原で産むわけにもいきません。それで、やつてまいりました」と仰いました。そして、海辺の渚に、鵜の羽で屋根を葺いて産屋を造りました。ところが産屋の屋根が葺き終わらないうちに産が始まり、産屋にお入りになりました。

そうして、まさに産もうとする時に、火遠理命に「他の国の人、産む時にあたり、自分の国の姿をとって産みます。だから、私は本来の姿になって子から、私を見ないで下さい」と仰いました。そこで、その言葉を不思議に思い、まさに産もうとする時にそつとのぞいて見られると、大きなわにに変わって、腹ばいになって身をくねらせていました。それで、火遠理命は驚き恐れ、逃げ去られました。

豊玉毘売命は、のぞき見られたことを知り、恥ずかしく思われ、すぐにその御子を産んでその場におき「私は、海の道を通ってあなたのところに通いたいと思っておりました。けれど私の姿をのぞき見たことは、大変恥ずかしいことです」と申され、たたちに海の世界と葦原中国の境を塞ぎ、自分の国へ帰ってしまわれました。

このようなわけで、その産んだ御子の名は、天津日高日子波限建鵜葺草葺不合命と名付けられました。

その後、豊玉毘売命は、火遠理命がのぞき見たことを恨みはしたものの、恋しく思う心は抑えられず、その御子の養育という名目で妹の玉依毘売を遣わし、歌をたてまつりました。

赤玉は 緒さへ光れど

白玉の 君が装し貴くありけり

(赤玉は、それを通して緒まで光りますが、白玉のようになああなたの姿はさらに立派で貴いものです)

火遠理命が答えて、お歌いになった。

沖つ鳥 鴨着く島に、我が率寝し妹は忘れじ 世の悉に

(鴨が寄りつく島で私と共寝をした妻のことは一生忘れない)

そうして、日子穗々手見命(火遠理命)は、高千穂の宮に五百八十年の間いらつしやいました。御陵は、高千穂の山の西にあります。

御子の鵜葺草葺不合命が、叔母の玉依毘売命を娶って産んだ御子の御名は、五瀬命。次に、稲水命。次に、御毛沼命。次に、若御毛沼命。またの名は、豊御毛沼命。またの名は神俊伊波礼毘古命。

そのうち、御毛沼命は波頭をつたつて常世国へ渡られ、稲水命は、母の国である海原にお入りになりました。

ここで三巻からなる『古事記』の「神さまのおはなし」をあらわした上巻が終わりました。最後にお生まれになった神倭伊波礼毘古命が初代の神武天皇さまです。(おわり)



の御霊による誓約をされたのです。

さらに、天照大御神様が天石戸にお隠れになられた際にも、天石戸の前に『八咫鏡』と玉祖命に命じて造られた『八咫瓊勾玉』が真賢木に取り付けられて据え置かれ祭祀が執り行われました。

そして、瓊瓊杵尊様が高天原から地上に降臨される時、天照大御神は『八咫鏡』とともに『八咫瓊勾玉』をお授けになられます。

『八咫鏡』について天照大御神様は、我が御魂として斎き祀れと仰せになられますが、『八咫瓊勾玉』については授けられただけのお言葉がありません。

この様に勾玉は、授けられた者が授けた者と御魂が一体となる神具であつて改めて言葉にする必要がないものなのです。『八咫瓊勾玉』にあつても授けられた天照大御神様の御魂そのものであり、それを受られた時、天皇の御魂は天照大御神様の御魂と一体になられる信仰がそこにあります。

以後、代々の天皇様に絶えること無く受け継がれ、現在、『八咫瓊勾玉』は皇居の「剣璽の間」に神劍(天叢雲劍の形代)とともに神璽(八咫瓊勾玉)が奉安されています。

「音」に集う人々 茨木音楽祭開催



去る五月五日の端午の節句、昨年に引き続いて茨木音楽祭が茨木市中央公園グラウンドを中心に、市内五つの会場で開催されました。その内の一つに当神社も加わり、「鑑賞の杜」と名付けられた境内は、音楽だけでなく多くの芸術家やデザイナーの作品が境内に散りばめられて、「くつろぎの時間と空間」が演出されました。さらに今回はインターネット回線を利用して各

会場の模様をパソコンで視聴できるようにするなど、より多くの人に情報を伝える工夫もされました。

当日は天候にも恵まれ、多くの人々が各会場を巡り、大変な盛況ぶりでした。

今回で三回目となる茨木音楽祭、「茨音」の名称で親しまれるようになることも、回を重ねるごとにスケールも壮大になり、また市民にも次第に浸透してきている様に思われます。それは、若者を中心とした主催者や、五十名を越す多くのボランティアが一つの目標に向かって、若い力を、熱意を、十二分に発揮され、それが市民に理解されてきているからだと思えます。

休憩所竣工

昨秋より東門脇で進めていた休憩所・お手洗いの新設工事は、お陰様で本年二月に竣工しました。すでに参拝者の待ち合わせや、憩いの場として多くの方にご利用頂いております。休憩所の中には当社所蔵の古い時代の写真や、刊行物を掲示してありますので、ご参拝の折にご覧ください。

奉賛会だより

本年も四月十八日に奉賛会厄除安全祈願祭が当社の春祭に合わせ奉賛会で行われました。

午後二時より本殿での祭典の後、参集殿二階で総会が行われました。総会に先立ち、東日本大震災において、亡くなられた方々に哀悼の意を表し黙祷が捧げられました。

審議事項では、事業計画、決算・予算審議の後、長年会長を務めて下さいました榎浪様が勇退されたのに伴い、役員改選が行われ新たに木内孝至副会長が会長に選任承認されました。榎浪様には大所高所よりご指導い



ただきたく顧問にご就任いただきました。

総会終了後、平成二十一年十一月に付け替えられた宇治橋の渡始式のビデオが上映されました。そして直会に移り盛会裡に終了しました。

奉賛会では、随時入会者を募っております。社務所までお問い合わせ下さい。

なお、新たに選任された方々を含め現在の奉賛会の役員は左の方々です。(敬称略)

- ・会長 木内 孝至
- ・副会長 堀 茂夫
- ・会計 澤田 義友
- ・会計監査 仲辻 春次
- ・理事 今村 哲夫
- ・理事 信垣 茂男
- ・理事 大西 利昭
- ・理事 鎌田 健司
- ・理事 野口 昌昭
- ・顧問 山口 俊行
- ・顧問 榎浪 新三

就任報告

この度、山口俊行様(元町)・野口昌昭様(上泉町)に、平成二十三年四月より神社総代にご就任いただきました。